

平成26年度 一般選抜中期日程／国際商学科 外国語
出題の意図と解答の傾向

I

問1 (各5点)

(ア like) (イ from) (ウ to) (エ with) (オ for)

【採点講評】

(ア)から(エ)の正答は多かった。(オ)に誤って against を選択している数は多かった。文脈で判断していないような印象を受けた。

問2 (15点)

【解答例】

私は息子が自分の足で立って歩くようになってほしいという一心だった。

【採点講評】

"for"の解釈の間違いが多かった。時制の間違い、"and"の解釈の間違いもある程度、見られた。これらの間違いを除き、ほぼ理解できていた。

問3 (20点)

【解答例】

タイの現状では、先天性の障害や小児まひで歩くことができない子どもたちは正しい扱いを受けていないが、そういう子どもたちの生活の質を向上させるため。

【採点講評】

"and"を間違えた解釈、および先天性四肢欠損症候群、脳性小児麻痺、運動障害の関係の誤解が意外と多かった。これらの間違いを除き、ほぼ理解できていた。

問4 (10点)

【採点講評】

[c]「多い」が正答であり、概ねよくできていた。ただ、記号で解答すべき問題であるところを、「多い」、「少ない」と言葉で解答している答案がいくつか見られた。

問5 (20点)

【解答例】

赤ちゃんが障害をもって生まれた場合に警告の連絡を受ける電話の対応窓口を設置し、そうした赤ちゃんのお母さんを慰め、次にすべきことを案内する職員を派遣するようにすること。

【採点講評】

質問となる下線部の次の一文が解答となっており、多くの答案がこの部分の日本語訳だったため、出題者の意図は概ね理解できていたと思われる。しかし、正確に訳出できている答案は少なかった。誤訳の例では、alert「警告する」をalter「変える」、consolation「慰め」をsolution「解決策」などと訳出している答案が極めて多かった。「障害を持った子供の誕生を変える」などは日本語として意味不明であるため、誤りに気付くべきだろう。

問6 (15点)

【解答例】

自分がすることや創り出すことが障害者の友達に使いやすいかどうかをあなたは注意深く考えるようになるだろう。

【採点講評】

間接疑問文 **whether** の従属節の中に **what** の名詞節が含まれるやや複雑な文構造だが、この文構造が全く把握できていない答案が目立った。従属節内の主語となる **what** 名詞節は「することや創り出すこと」と訳すべきだが、「何をするか、何を創るか」と疑問文で訳す答案が多かった。そもそも、文構造が把握できていないため、概して日本語として意味をなさない訳文が多いことも憂慮される。また、**friendly** を「友好的」と訳す答案が多かった。もちろん、**friendly** には「友好的」という訳語もあるが、本文の文脈からすると「役に立つ」、や「助けになる」といったより相応しい訳語が選択されるべきであろう。

問7 (25点)

【解答例】

オーストラリアで運動障害のある子供が学校の教室で一緒になっているように、みんなが社会に適合するようするため、健常者の生徒と障害のある生徒が共に勉強して教えあう教育環境を子供が小さい時から整えること。

【採点講評】

two-way (障害のある生徒と健常者の生徒の双方向)の意味が、本文に即しておおよそ捉えられているものには20点を与えた。その上で、「小さいときから始めるプログラムである」といった文言を加えて、より正確に捉えているものには、その程度に応じて加点した。本文に即していない解答には、厳しい点数を付けた。

問8 (10点)

【解答例】

ズーは私の小さな教授で、彼の話が多くの人に役立つことを私は強く望んでいる。

【採点講評】

全体的に出来は良かった。**Lee** は自分の息子のズーから学んだということで、**professor** は「教授 (一步譲って、先生)」と訳して欲しかったが、「専門家」という訳が目立った。その他にも、「職人」や「経営者」など、的外れの訳が20種類程度あった。

他には、**beneficial** も、誤訳ではないので減点していないが、「有益になる」という硬い訳が目立った。**hope** (望んでいる) を訳に反映させていないものも少なくなかった。**story** は、素直に「物語」と訳してあればよかったが、「人生」という訳も良しとした。日本語訳では、「役に立つことを私は強く望んでいる」が自然だが、**will** を無理に訳出し「役に立つであろうことを私は強く望んでいる」という解答が目立った。これは減点していない。

II

問1 (各15点)

1.

【採点講評】

「～する必要がない」という場合、形式主語の *it* を使うことが分かっておらず、*they don't have to ...* のように人を表す主語の文で表している解答が目立った。これは文意が伝わる範囲で得点を与えた。採点では *building* と書くところを *bill* と誤って書いた解答は、不可算名詞の *furniture* を誤って *furnitures* と複数形にしたものものよりも、厳しく減点した。

2.

【問題】

こうした地震の多くは余りにも小さく、人間が感じることはないが、それでも時折やや大きな地震を経験することはある。

【解答例】

Most of these (earthquakes) are too small to be felt by humans, but occasionally a slightly larger quake is experienced.

【採点講評】

too ... to do の構文、或いは *so ... that ...* の構文を理解しているかどうかを見る問題であった。単語レベルでは、目に付いたのは三つの単語である。一つは、*humans*。これを *human* としているものが多く、確かに名詞としての用法もあるにはあるが、基本的には形容詞であることが理解されていなかった。もう一つは「経験」を表す *experience*。これについては、*experiment* としているものがかなりあった。もう一つは *most* で、これは予想通り *almost* を使っている答案が目についた。構文レベルでは、*too ... to do* の構文と、*so ... that* の構文を混同しているものもあったが、それよりも不定詞の意味上の主語が理解できておらず、*too small humans did not feel / too little felt humans* など色々な答案が見受けられた。出題者としては、少なくとも *too small for humans to feel* 位の作文を望んでいたが、この構文を利用した学生でも *too small for humans to feel it* とするものが多く、間違うにしても *most of these (earthquakes)* であれば *them* として欲しかった。

問2 (30点)

【採点基準】

この問題を通じて受験生は意見や理由を明確に述べられるかどうか、限られた時間内にアイデアを十分に展開させられるかどうか、段落を論理的に構成できるかどうか、また受験生の英語が十分に通じるかどうかを見たいと考えた。「内容」、「構成」、「言語力」を中心に、30点満点で解答を総合的に採点した。

「内容」については、意見や理由、詳細を十分に説明し、論理的に展開させているかを中心に評価した。「構成」については、解答は導入文・本文・結論で構成されているかどうか、「discourse markers」(*first, second, one reason is, in conclusion* など)や接続詞が正確に尚且つ効果的に使われているかどうかを中心に評価した。「言語力」については、解答を読んで意味が理解できるかどうか、文法・語彙・綴り・句読点が正確に適切に使われているかどうか、受験生は難しい言い回しや語彙を使おうとしているかどうかどのくらい正確に使えたかなどを中心に評価を行った。

【解答例 1】

I think that job hunting should be delayed until the summer of students' fourth year of university. There are two reasons for this. First, if students start job hunting in December of their third year they will not have enough time to study. Students go to university to study, not to look for a job. If students do not have enough knowledge, they will not be good workers. So it's important that they study for longer. Secondly, if job hunting starts early, students will spend more time worrying about it and preparing for it. I think this is a waste of time. It is for these reasons that I think job hunting should be delayed.

【採点講評】

1 作文の構成について

- 1) 例を用いずいくつかの理由を並列するよりも、一つか二つの理由にしぼって具体例を示しながら述べた方がわかりやすい。
- 2) 最後に全体のまとめとしての一文があればわかりやすい。

2 文法的な問題点について

1) 主語の選択についての問題

I want to delay the timing.

より I want the government to delay the timing.

2) 接続詞、接続副詞についての問題

短文の先頭に等位接続詞が来て完結させるのはおかしい。

a. I think job hunting should be delayed. Because students don't have much time.

より This is because students don't have much time.

b. 接続副詞 however と等位接続詞 but の混同。

University students have to study, however, they don't have enough time.

より University students have to study, but they don't have enough time.

3) 'for example' の誤用

Students can do many things. For example, going abroad and to take part in volunteer activities.

より

Students can do many things such as going abroad and taking part in volunteer activities.

4) 定冠詞の問題

The university students need to find the job.

特定の大学生、特定の仕事でない場合でも 定冠詞 the の使用が多く見られる。

University students need to get jobs.

5) 理由を列挙する際の表現に関する問題

The first reason, they need time to study.ではなく

The first reason is (that) they need time to study.か

First, they need to time to study.

6) 日本語からの直訳が散見される

drop unit (単位を落とす) より fail (in) the course、
decide a job (就職を決める)より get a job など